

ストップ気候危機！ スタンディングをしました

まだ暑さが続く9月16日、たづくり横でプラカードや横幕を手し、ストップ気候危機！を道行く人たちにアピールしました。これは気候非常事態・共同宣言に賛同する自治体議員有志の呼びかけで全国一斉に行われたアクションです。調布市では木下やすことともに、鈴木ほの香市議、磯邊隆市議に生活者ネットメンバーも加わって行いました。

今夏の異常な猛暑により、市内小中学校のエアコン故障の修繕費や、育ちが早くなった街路樹の剪定費などで市の財政支出も増えました。長引く猛暑は、私たちの暮らしや健康にも直接的な影響を及ぼしています。

日本の気候変動対策の具体的な進展は遅く、危機感を共有できていないのが現状です。そうした中で、気候変動を「デマ」とする無責任なトランプ氏の発言は、世界的規模での対策をさらに遅らせかねません。

決して諦めることなく、地域から声を上げ続けること、そして一人ひとりが省エネなどの行動を積み重ねることが、未来の地球環境を守る確かな一歩となると信じています。

(D.K.)



平和の感受性を育む

今年2月、東京YWCAの女性と人権勉強会が企画した、平和で平等な社会を目指し、「女性・人権を学ぶ」ことをテーマとしたスタディツアーに参加しました。そこでは、韓国YWCAとの交流をはじめ、戦争と女性の人権博物館、ナムムの家などを訪れ、戦争の愚かさによって改め、怒りを覚えるとともに、人権の大切さを学びました。

今年8月には、国際NGO日本YWCAが4年に1度開催する中高YWCA全国カンファレンスに参加し、ワークショップの一つでファシリテーターを務め、「平和を作るってどんなこと？」をテーマに、韓国の平和教育NPOピースモモのアクティビティを取り入れました。ピースモモの平和教育は、社会の中の暴力の構造に着目し、対等な関係性の中で学び合い、「平和の感受性」を育てることで社会に変革をもたらすことを目指しています。ワークショップでは、ピースモモの人権や平和についてのアクティビティをアレンジしましたが、「平和の感受性を育む」ことの大切さを若い皆さんと体感することができ、私自身も新たな学びの機会となりました。

これからもこうした韓国の取り組みをお手本に、権力主義の仕組みや家父長制から脱却し、男女が平等で人権を大事にする、誰もが自分らしく生きられる社会を目指し、仲間と連帯していきたいと考えています。

(Y.N.)



小型機墜落事故から10年 2度と繰り返さないために

調布市内で起きた自家用機墜落事故から今年7月26日で丸10年が過ぎました。改めて事故で亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。

この10年で何が進展し、何が解決していないのでしょうか。

事故原因の一つは、重量オーバーだったと分析されている他、禁止されている遊覧飛行を目的としていたことも分かっています。そこで、同じことが繰り返されないようにとの視点で、出発前の操縦士の提出書類や確認事項が厳格化され、研修内容にも改善が加えられています。

合わせて東京都は、調布市との協定書にある「飛行場受け入れ条件」の一つである「自家用機の積極的な分散移転」に向けて大島空港に格納庫を整備し、訓練飛行の実施ができるようにしたり、移転に伴う費用補助を予算化もしたりしています。しかし、自家用機17機の移転は進んでいません。

調布飛行場等対策特別委員会では、こうした都の取り組みや進捗状況に加え、年に2回実施される航空機航跡調査の結果報告も受けています。2024年度には同じ事業機のパイロットが2度にわたり、決められた航路を外れていたとの報告がありました。委員会でも厳しく批判し、都にも伝えたところです。

調布飛行場の利用は「許可制」のため、窓口をどれだけ厳格化しても、最終的な責任はパイロットに委ねられます。こうしたことから、いかなる改善がはかられたとしても、二度と事故を起こさせないためには、事故を風化させないこと、そして地域住民とともに市議会も監視の目を緩めないことが重要だと考えています。地域の安全・安心のために、これからも力を合わせていきましょう。



2023年3月に管制塔の足もとに
設置された石碑